

【R 1 8】 会話形式ノベル（台本仕様）

『女室長物語～男性秘書採用面接～』

作：七条右京

【登場人物】

- ・ ざいぜんさくらこ 財前桜子：社長の愛娘で、社長室長
- ・ みずたに そうま 水谷蒼真：面接に応募してきた男
- ・ あべ かおり 阿部香織：桜子の親友でもある部下

**バブル全盛期の１９８７年（昭和６２年）、
セクハラやパワハラが日常的に許容・黙認され
ていた時代。**

**社長の娘と言うだけで、社長室長と言う役職に
就く財前桜子。**

今日は、桜子の男性秘書を採用する面接の日。

採用試験に面接に来た蒼真に桜子は、

**「なんかの時は、カラダを張って私の事を守っ
てくれなきゃ駄目なのよ」**

**「貴方のカラダ、見せて貰ってもいいかし
ら？」**

と言って、服を脱がせ全裸にしてカラダのチェ

ックをする。

○社内にある桜子専用の部屋

桜子は、自分のデスクに。

**蒼真は、室内に置かれた折り畳み式のパイ
プ椅子に座っている。**

財前桜子：

「水谷蒼真さんね」

「履歴書を見させて貰ったわ」

「頭脳は優秀ね」

「私の秘書は、ハードワークよ」

「それに、なんかの時は、カラダを張って私の
事を守ってくれなきゃ駄目なのよ」

「大丈夫かしら？」

水谷蒼真：

「はい、大丈夫です」

「誠心誠意お仕えします」

「どうか、よろしくお願いします」

桜子：

「心構えは分かったわ」

「貴方のカラダ、見せて貰ってもいいかし
ら？」

「私の秘書としての資格があるか、確かめたい

の」

蒼真：

「あっ、はい」

桜子：

「それじゃあ、裸になって貰えるかしら？」

蒼真：

「えっ、裸ですか？」

桜子：

「そうよ、裸よ」

「全部脱いで見せて頂戴」

蒼真：

「全部って、パンツもですか？」

「オレ、ちんこ見られるんですか？」

「ちょっと恥ずかしいです」

桜子：

「出来ないならそれでもいいのよ」

「はい、面接はこれで終了」

「帰って貰ってもいいわ」

蒼真：

「ちょっと、ちょっと待って下さい」

「分かりました」

「全部脱ぎます」

「今すぐに、脱ぎますから」

桜子：

「そう、早くして頂戴」

桜子・心の声：

『顔は、イケメンで合格よ』

『あとはカラダ』

『私の事を、色んな意味で充分に楽しませてくれるカラダじゃなきゃ駄目なのよ』

『どんなおちんちん、してるのかしら？』

『楽しみだわ』

蒼真、桜子の機嫌が悪くならない様に、急いで